

医学教育分野別評価 鹿児島大学医学部医学科 年次報告書
2019年度

評価受審年度 2017（平成29）年

改善した項目／今後改善が見込まれる項目

1. 使命と教育成果	1.3 学修成果
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
鹿児島大学医学部の学修成果基盤型教育の全体像を学生および教職員に周知させ、それに基づいて教育プログラムをより充実させるべきである。	
改善状況／現在の状況	
学生に対しては、学習成果基盤型教育としての教育到達目標の真意を入学直後から繰り返し説明するとともに、チーム医療1・2を代表とするカリキュラムにより低学年より全体像の理解を促している。教員に対しては、新任教員へのFD教育の際に説明するとともに、全教員に対して教育到達目標の達成度評価のシステム登録の説明を通じて全体像の周知を行っている。2019年度より実施される4年次の「自主研究（必修）」の評価においては教育到達目標の達成状況を指標に用いることを決定した。	
今後の計画	
学生に対しては、継続して低学年より基礎・臨床双方の学習の中で教育到達目標の周知を促していく。2019年度から変更した、4年次の自主研究（必修）においては、実施前の事前講義の際に、学修成果基盤型教育の全体像と併せて学生に周知する予定である。教員に対しては、引き続き評価方法をFD等で周知を図る予定である。また、phase 1・2・3に段階的に構築されたカリキュラムに於いて、マイルストーンとしての学習成果が確認できるe-ポートフォリオを活用した学修成果基盤型教育の評価を導入する。	
改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料	
【資料1】医学研究科目「自主研究（必修）」シラバス記載要領及び授業モデル	
【資料2】e-ポートフォリオ使用法	

1. 使命と教育成果	1.4 使命と成果策定への参画
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
平成21年に医学科到達目標を策定したプロセスにおいて多くの教員が参画していたが、今後は学生や事務職員等も積極的に参画すべきである。	
改善状況／現在の状況	
教務委員会医学科部会の学生委員として4・5年次の学生に加え、2・3年次	

<p>の学生の参加を依頼し、教育改善に取り入れる計画を立てた。また、教務係事務職員3～4名が参加して円滑な教育改善に貢献している。「使命と目標とする学修成果の策定」には、この教務委員会医学科部会が深く関わるため、学生や事務職員の参画が可能な仕組みとなっている。</p> <p>また、今後の起こりうる「使命と目標とする学修成果の策定」には、日頃からの学生や事務職員の教育への参画を通じての教育意識の醸成が必要であり、2017年度に開催したFD研修会「医学教育・分野別評価報告会」においては、医学科カリキュラムに関わるワークショップを行ない、学生も参加し議論を行った。学内で開催する学部講師によるFD講演会においては学生も参加している。</p>
<p>今後の計画</p> <p>教務委員会医学科部会の学生委員として4・5年次の学生に加え、2・3年次の学生の参加を依頼する。</p> <p>また、変化する社会のニーズを柔軟に受け止め、教育到達目標の妥当性を学生とともに検討し、今後も継続的に討論し、改善していく機会を作り、来たるべき「使命と目標とする学修成果の策定」の際に、参画する人材の育成に努める。</p>
<p>改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料</p> <p>【資料3】平成30年度第12回教務委員会医学科部会議事要旨 【資料4】医学科FD研修会（医学教育分野別評価報告会）開催通知 【資料5】医学科FD研修会（医学教育分野別評価報告会）参加者一覧 【資料6】医学教育FDセミナー「医学教育の今そして未来のために」 【資料7】医学教育FDセミナー「医学教育の今そして未来のために」参加者一覧</p>

1. 使命と教育成果	1.4 使命と成果策定への参画
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
広い範囲の教育の関係者から意見を聴取し、記録に残すことが望まれる。	
改善状況／現在の状況	
<p>医学部における使命の策定については、企画委員会及び企画委員会医学科部会で審議され、目標とする教育到達目標の策定については、教務委員会医学科部会にて審議されており、教育に関する主要な構成者が参画している。医歯学教育開発センターは学内外の幅広い教育の関係者の情報を収集している。共用試験OSCE実施後には模擬患者から意見を聴取し、学生の臨床実習前の技能について客観的到達度を確認している。またシャドウイングやチーム医療といった科目においては学外の臨床教授より、指導内容等について意見の聴取を行っている。</p>	
今後の計画	
<p>各分野で学外の研修機関からの意見を集約し、カリキュラムに反映できるような体制づくりを進めるとともに、地域で教育を担当している臨床教授等の指導者を含めた意見集約を考慮していく。</p>	
改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料	

2. 教育プログラム	2.1 プログラムの構成
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
学習成果基盤型教育の内容が教員や学生にとって十分理解されておらず、改善すべきである。	
改善状況／現在の状況	
<p>教員へは、教育到達目標の達成度評価のシステム登録の説明を通じて学習成果基盤型教育の周知を行っている。2019 年度より実施される 4 年次の「自主研究（必修）」の評価において教育到達目標の達成状況を指標に用いることを決定するとともに、学生にも周知した。</p> <p>また、医学科 F D 研修会「新任教員研修会」において学習成果基盤型教育について教員に対して周知を行った。</p>	
今後の計画	
<p>学生は入学時やその後の 1・2 年次の「チーム医療」において、学習成果基盤型教育の説明を受けているが、更に、4 年次の自主研究（必修）の実施前事前講義の際に、学修成果基盤型教育の全体像と併せて学生に再度周知する予定である。</p> <p>また、教員に対しても、継続して評価方法を F D 等で周知を図る予定である。教育プログラムについては、e-ポートフォリオの活用を促し、これを活用した学修成果基盤型教育の理解を促進する。</p>	
改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料	
<p>【資料 1】医学研究科目「自主研究（必修）」シラバス記載要領及び授業モデル</p> <p>【資料 2】e-ポートフォリオ使用法</p> <p>【資料 8】平成30年度第 8 回カリキュラム検討WG資料</p> <p>【資料 9】新任教員 F D 研修会資料①（医学部長）</p> <p>【資料10】新任教員 F D 研修会資料②（教務部会長）</p>	

2. 教育プログラム	2.2 科学的方法
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
臨床実習の場で EBM を実践できるようにすべきである。	
改善状況／現在の状況	
2017 年度に F D として「臨床推論の教育」をテーマにワークショップを開催し、本学実習の改善策を検討した。臨床での実践については、臨床実習の現場で「UP To Date」を用いて教育する、実践的講習会を計画した。	
今後の計画	
2019 年 5 月には F D 委員会主催にて端末を持参の教員、学生を対象として「UP	

To Date」を実践している学外講師の講演会を行う。臨床実習の現場でさらに具体的にEBMの考えが定着するよう内容を吟味し、検討を行っていく。
改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料
【資料4】医学科FD研修会（医学教育分野別評価報告会）開催通知 【資料11】医学科FD研修会（医学教育分野別評価報告会）ワークショップメモ①

2. 教育プログラム	2.3 基礎医学
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
基礎医学教育において、「現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測されること」を検討することが望まれる。	
改善状況／現在の状況	
1年次に開講される「医学生物学」においては基礎医学、臨床医学の学習に発展するための医学の基盤となる生物学を学ぶ内容とし、臨床医学、先端医学における生物学の位置づけの理解を促している。2年次の後期においては「診断治療基礎」の科目を設け、基礎と臨床の橋渡しの役割を果たしている。	
今後の計画	
基礎医学系科目を対象に「現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測されること」について実施状況の把握を行い、学習機会の拡充を継続的に検討していく。	
改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料	
【資料12】【シラバス】医学生物学（生物学基礎と発生学） 【資料13】【シラバス】診断治療基礎	

2. 教育プログラム	2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
医療倫理学の教育にアクティブ・ラーニングの手法を取り入れることが望まれる。	
改善状況／現在の状況	
3年次の授業科目「医療倫理」においては、倫理的問題について、過去の事例を基に、自らの意見を討議し、倫理についての理解を深める内容のグループワークを行っている。	
今後の計画	
授業科目「医療倫理」においては、今後、e-ポートフォリオの日々の学習の振り返りやそれに対するフィードバックを活用した指導を通じて、より学生が主体的に学習する内容となるよう検討を行う。	

改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料
【資料14】 【シラバス】 医療倫理
【資料15】 医療倫理講義資料

2. 教育プログラム	2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
研究・医療倫理の教育を充実することが望まれる。	
改善状況／現在の状況	
2年次前期において生命倫理・研究倫理の授業を行っているが、更に2019年度より実施される4年次の「自主研究（必修）」において研究倫理の教育の充実のため、実施前の事前講義を行うこととしている。	
今後の計画	
4年次の自主研究（必修）の実施前事前講義の際に、研究倫理を学習する機会を確保し、研究倫理に対する学生の理解を深める予定である。また、この「自主研究」を控え、研究倫理を学べる e-learning を開設する。	
改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料	
【資料16】 自主研究開始前事前講義資料関係	

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
学生が臨床実習を通じて十分な臨床推論のトレーニングを行えるよう、診療参加型臨床実習を充実させるべきである。	
改善状況／現在の状況	
FDとして他大学より講師を招き、臨床推論に関わる講義および公開講座を行い、臨床推論に関わる指導方法について理解を促した。またFDとして「診療参加型臨床実習」をテーマに東京医科歯科大学より講師を招き、指導に関する理解を促した。	
今後の計画	
2019年度1月より開始の新「臨床実習」の開始に併せて、診療参加型臨床実習を充実させるようシラバスに反映させることを検討する。また、シラバスの記載において臨床推論を学ぶことを明記する。	
2019年5月にはFD委員会主催にて端末を持参の教員、学生を対象として「UP To Date」を実践している学外講師の講演会を行う。	
改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料	
【資料17】 医学教育FDセミナー（臨床推論）および公開授業開催通知	
【資料18】 医学教育FDセミナー（診療参加型臨床実習）開催通知	

【資料19】FD研修会 (UP To Date) ポスター

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
<p>臨床実習の実習期間は2週間が基本となっており、十分な診療参加型実習にならないので、コア診療科での臨床実習期間を十分に設けるべきである。 日本版注釈：診療参加型臨床実習を効果的に行うために、重要な診療科では、原則として1診療科あたり4週間以上を確保することが推奨される。(新規追加項目)</p>	
改善状況／現在の状況	
<p>2019年度1月開始の臨床実習においてコア診療科での臨床実習期間を拡充するよう計画した(内科8週、外科8週、精神科4週、小児科6週、産婦人科6週、救急)。また、離島・地域医療実習において、4週間の総合診療・家庭医療・救急医療を学ぶ機会を設けている。</p>	
今後の計画	
<p>コア診療科(内科、外科、精神科、小児科、産婦人科、救急)での臨床実習期間を拡充するよう計画済みであり、具体的に実習内容の検討を行う。</p>	
改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料	
【資料20】平成31～32年度臨床実習時間割表	

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
<p>学外での臨床実習の機会を積極的に拡充すべきである。</p>	
改善状況／現在の状況	
<p>学外施設を1施設増設し、学外実習の機会の拡充を図った(合計60施設)。6年次選択実習(必修)の48%が学外にて実習している。また、学外指導者の推薦を募り、学外での実習機会の確保に努めている。</p>	
今後の計画	
<p>学外の指導者向けに指導方法の周知を図る。また、学外指導協力者への評価に関する意見を定期的集約できる機会の確保を検討する。</p>	
改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料	
【資料21】平成30～31「選択実習」学外実習参加者数及び比率	
【資料22】平成30～31「選択実習」実習施設(臨床教育協力機関等)一覧	

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
総合診療・家庭医療・救急医療などのプライマリ・ケア教育をより一層充実すべきである。	
改善状況／現在の状況	
離島・地域医療実習において、総合診療・家庭医療・救急医療を学ぶ機会を設けているが、さらに充実するように 2019 年度の離島・地域医療実習の期間を 5 日間から 10 日間に延長した。	
今後の計画	
離島・地域医療実習において、総合診療・家庭医療・救急医療を学ぶ機会を設けているが、さらに充実するように 2019 年度の離島・地域医療実習の期間を 10 日間から 12 日間に延長する。 離島・地域医療実習においてプライマリ・ケア教育を十分に学ぶ機会を設けており、今後も継続して学ぶ機会を提供していく。	
改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料	
【資料23】離島・地域医療実習日程（令和元年度）	

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
臨床実習期間に健康増進と予防医学を体験できるようにすべきである。	
改善状況／現在の状況	
「離島・地域医療実習」において、総合診療・家庭医療・救急医療を学ぶ機会を設けているが、さらに充実するように 2019 年度の離島・地域医療実習の期間を 5 日間から 10 日間に延長して、健康増進について学ぶ時間を増やした。 また、「離島・地域医療実習」の中の、保健センター実習において、保健師とともに予防医療や健康増進について実践している。	
今後の計画	
「離島・地域医療実習」の中で、学生全員が住民に予防医療・健康に関する講話を行う計画を立てた。 離島・地域医療実習において健康増進と予防医学を体験できる機会を設けており、今後も継続して学ぶ機会を提供していく。	
改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料	
【資料23】離島・地域医療実習日程（令和元年度）	
【資料24】【シラバス】離島・地域医療実習	
【資料25】予防医療講義資料	

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
低学年からの患者接触プログラムを構築すべきである。	
改善状況／現在の状況	
1年次前期の「患者と医療」において、がん患者と直接対話形式で話を聞く機会を設定している。また、2年次には「チーム医療1」において、臨床の現場で患者と接する機会を設定している。3年次後期には、「医療面接1」で、模擬患者とのロールプレイを行い、更に継続して3～4年次のシャドウイングにおいて患者と接する機会を設定しており、低学年から計画的に患者と接する教育プログラムを確保している。	
今後の計画	
低学年から計画的に患者と接する教育プログラムを確保していることから、今後も学ぶ機会を継続して提供していく。	
改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料	
【資料26】 【シラバス】患者と医療 【資料27】 【シラバス】チーム医療1 【資料28】 【シラバス】医療面接1 【資料29】 【シラバス】シャドウイング	

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
臨床実習において臨床技能や臨床推論を学ぶ体制をより一層整えることが望まれる。	
改善状況／現在の状況	
2017年度にFDで「診療参加型臨床実習：指導体制、学習方法の改善」をテーマにワークショップを開催し、本学実習の改善策を検討した。 またFDとして「診療参加型臨床実習」をテーマに東京医科歯科大学より講師を招へいし、指導に関する理解を促した。	
今後の計画	
2019年5月にはFD委員会主催にて端末を持参の教員、学生を対象とし「UP To Date」を実践している学外講師の講演会を行う計画を立てた。 改善策としてあげられた意見をひとつひとつ検討し、実行に移していく。	
改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料	
【資料4】医学科FD研修会（医学教育分野別評価報告会）開催通知 【資料11】医学科FD研修会（医学教育分野別評価報告会）ワークショップメモ① 【資料18】医学教育FDセミナー（診療参加型臨床実習）開催通知	

【資料30】総合医療科目チュートリアルガイダンス資料

2. 教育プログラム	2.6 プログラムの構造、構成と教育期間
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
学習成果との到達度が容易に理解できるように積極的に学生及び若手教員に教育内容、評価方法を周知すべきである。	
改善状況／現在の状況	
学習の手引きにカリキュラムマップならびにPhase 1・2・3の教育到達目標を明示して入学時および随時学生に教示している。また新任教員を対象としたFDにおいても同様の内容を周知している。	
今後の計画	
学生および新任の教員への現行の周知体制を維持、継続していく。	
改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料	
【資料1】医学研究科目「自主研究（必修）」シラバス記載要領及び授業モデル	
【資料2】e-ポートフォリオ使用法	
【資料31】医学科学習の手引き（抜粋）	
【資料32】平成31年度医学部新入生オリエンテーション実施要領	
【資料33】平成30年度新任教員FD研修会資料	

2. 教育プログラム	2.6 プログラムの構造、構成と教育期間
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
基礎科目の水平的統合は一部にとどまっており、より広範な統合を行うことが期待される。	
改善状況／現在の状況	
カリキュラム検討WGにおいて本学のカリキュラムの体系的方針として水平的・垂直的に統合された教育体制にすることへの意見の統一を図った。そして、2017年度のFDにて「学習の水平的・垂直的統合」をテーマにワークショップを開催し、統合カリキュラムを推進するための方策を検討した。アンケートの結果を踏まえ、一部ではあるが、「微生物」および「免疫」の授業科目において関連項目の統合を促した。	
今後の計画	
2020年度の時間割作成において、統合カリキュラムの拡張を考慮に入れて、体系的方針の進捗を目指す。	
改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料	
【資料4】医学科FD研修会（医学教育分野別評価報告会）開催通知	

<p>【資料34】医学科FD研修会（医学教育分野別評価報告会）ワークショップメモ②</p> <p>【資料35】医学科FD研修会（医学教育分野別評価報告会）ワークショップメモ③</p> <p>【資料36】平成30年度第4回カリキュラム検討WG資料</p> <p>【資料37】水平的・垂直的統合に関する医学教育カリキュラムに係るアンケート結果まとめ</p> <p>【資料38】「免疫」、「微生物」等の時間割</p>

2. 教育プログラム	2.6 プログラムの構造、構成と教育期間
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
基礎と臨床科目の垂直的統合も一部に限られており、より広範な統合が望まれる。	
改善状況／現在の状況	
カリキュラム検討WGにおいて本学のカリキュラムの体系的方針として水平的・垂直的に統合された教育体制にすることへの意見の統一を図った。そして、2017年度のFDにて「学習の水平的・垂直的統合」をテーマにワークショップを開催し、統合カリキュラムを推進するための方策を検討した。アンケートの結果を踏まえ、一部ではあるが、「微生物」および「免疫」の授業科目において関連項目の統合を促した。	
今後の計画	
2020年度の時間割作成において、統合カリキュラムの拡張を考慮に入れて、体系的方針の進捗を目指す。	
改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料	
<p>【資料4】医学科FD研修会（医学教育分野別評価報告会）開催通知</p> <p>【資料34】医学科FD研修会（医学教育分野別評価報告会）ワークショップメモ②</p> <p>【資料35】医学科FD研修会（医学教育分野別評価報告会）ワークショップメモ③</p> <p>【資料36】平成30年度第4回カリキュラム検討WG資料</p> <p>【資料37】水平的・垂直的統合に関する医学教育カリキュラムに係るアンケート結果まとめ</p>	

2. 教育プログラム	2.7 プログラム管理
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
学生委員は少数であり、学生全体の意見を集約する体制を構築すべきである。	
改善状況／現在の状況	

<p>4・5年次の学生4名が教務委員会に参画して学生の意見を集約して教務委員会で発言してもらう機会を確保している。</p> <p>2019年度からは2・3年次の学生4名も教務委員会に参加する計画を立てた。</p>
<p>今後の計画</p>
<p>2019年度からは2・3年次の学生4名も教務委員会に参加する。事前に学生委員に議事内容を伝達し、学生の意見を集約しやすいよう促すとともに学生の意見を記録する。</p>
<p>改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料</p>
<p>【資料3】平成30年度第12回教務委員会医学科部会議事要旨</p>

2. 教育プログラム	2.7 プログラム管理
<p>質的向上のための水準 判定：部分的適合</p>	
<p>改善のための示唆</p>	
<p>カリキュラムの改善を主導する部署が明確でなく、PDCAサイクルが機能する体制を構築することが望まれる。</p>	
<p>改善状況／現在の状況</p>	
<p>FD委員会医学科部会にて、カリキュラムをモニターする授業評価アンケートの結果を分析・評価して自己評価検討委員会に上申し、企画委員会にて打ち出された改善の方向性に基づいて教務委員会にて執行するPDCAサイクルを構築した。</p>	
<p>今後の計画</p>	
<p>2019年度よりPDCAサイクルを動かし、教育カリキュラムの継続的改善を促進する。</p>	
<p>改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料</p>	
<p>【資料39】授業評価アンケート（1～4年生）</p>	
<p>【資料40】臨床実習評価アンケート（5年生）</p>	
<p>【資料41】臨床実習評価アンケート（6年生）</p>	
<p>【資料42】卒業生アンケート</p>	

2. 教育プログラム	2.7 プログラム管理
<p>質的向上のための水準 判定：部分的適合</p>	
<p>改善のための示唆</p>	
<p>教務委員会医学科部会に教員と学生以外の教育の関係者の代表を含むことが望まれる。</p>	
<p>改善状況／現在の状況</p>	
<p>総合臨床研修センター及び離島へき地医療人材育成センター、教務関係事務職員が参画している。</p>	
<p>今後の計画</p>	

<p>教務委員会医学科部会において、教育の関係者からの意見を紹介する機会を設け、多くの意見をまとめるように計画する。</p>
<p>改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料</p>
<p>【資料43】 鹿児島大学医学部教務委員会医学科部会規則</p>

2. 教育プログラム	2.8 臨床実践と医療制度の連携
<p>基本的水準 判定：適合</p>	
<p>改善のための助言</p> <p>学外の研修機関の意見をより一層反映できる体制を構築すべきである。</p>	
<p>改善状況／現在の状況</p> <p>総合臨床研修センターの責任者が代表となって学外の臨床教授より意見の収集を行っている。この責任者は、教務委員会医学科部会の委員であり、常に外部の意見を紹介することができる体制を構築した。</p>	
<p>今後の計画</p> <p>年に1回、学内の教員、学生、学外の指導者、教員と学生以外の教育の関係者の代表が一堂に会し、教育の成果をまとめる会を開催する。</p>	
<p>改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料</p>	
<p>【資料43】 鹿児島大学医学部教務委員会医学科部会規則</p>	

2. 教育プログラム	2.8 臨床実践と医療制度の連携
<p>質的向上のための水準 判定：適合</p>	
<p>改善のための示唆</p> <p>地域包括ケアセンターでの実習など地域の意見をさらに取り入れることが望まれる。</p>	
<p>改善状況／現在の状況</p> <p>離島・地域医療実習において、学生全員が2日間の在宅医療を経験している。この場において、地域包括の現場で、社会福祉師、保健師との話合いに同席する機会を得ている。</p>	
<p>今後の計画</p> <p>都市部の地域包括ケアセンターでの業務は参加人数が多く、まとまりがない状況にある。できるだけ地域の地域包括ケアセンターの業務を体験させる為に、学生全員が参加する在宅医療の現場での実習を今後も継続していく。</p>	
<p>改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料</p>	
<p>【資料24】 【シラバス】 離島・地域医療実習</p>	

3. 学生の評価	3.1 評価方法
-----------------	-----------------

基本的水準 判定：適合
改善のための助言
<p>評価が外部の専門家によって精密に吟味されているとは言い難く、外部の専門家の参画を促すべきである。</p> <p>日本版注釈：[外部の専門家によって精密に吟味]には、教育と評価を担当する当事者以外の専門家（学内外を問わない）によって吟味されることを意味する。（新規追加項目）</p>
改善状況／現在の状況
<p>医歯学教育開発センターは教育専門家による組織として位置付けられている。教員は、日本医学教育学会では学習者評価に関する専門家・指導責任者として活動しており、「学習者評価に関する専門家」として、科目試験データ分析（信頼性、項目分析）とフィードバック、卒業試験の妥当性に関する計画・事後評価に関わっている。</p>
今後の計画
<p>医歯学教育開発センターによる科目試験の分析を、臨床実習等を含む全科目・実習の評価に拡大し、評価の質の向上を図る。</p>
改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料
【資料44】 【シラバス】 チーム医療 2

3. 学生の評価	3.1 評価方法
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
外部評価者の活用が望まれる。	
改善状況／現在の状況	
<p>これまで地域医療機関の臨床教授等は、継続して学生評価に関わっている。6年次OSCEでは2017年より鹿児島市立病院医師2名が外部評価者として参画している。</p>	
今後の計画	
<p>共用試験 Post-CC OSCE の外部評価者活用方針に従い、鹿児島市立病院医師の参加人数増加を計画する。さらに本学卒業生を受け入れる研修病院医師の評価への参画を検討する。</p>	
改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料	
【資料45】 6年次OSCE外部評価者名簿	

3. 学生の評価	3.1 評価方法
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
学生の評価結果が学習促進に十分活用されることが望まれる。	

改善状況／現在の状況
e-ポートフォリオで学生の振り返りと教員による達成度評価を行っている。臨床実習では各ローテーションでの評価結果がグラフとして一覧でき、学生と指導医のコメントも閲覧できる。これらにより、評価結果を学習促進に生かしている。 GPAを指標に、成績不良者の学習指導体制も整備し実施している。
今後の計画
e-ポートフォリオの学習、評価への活用を教務委員会で検討し、推進する。
改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料
【資料1】医学研究科目「自主研究（必修）」シラバス記載要領及び授業モデル 【資料2】e-ポートフォリオ使用法 【資料46】e-ポートフォリオ評価画面

3. 学生の評価	3.1 評価方法
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
360度評価やmini-CEXなどの新しい評価法を導入し、形成的、総括的評価をすることが期待される。	
改善状況／現在の状況	
mini-CEXに相当するworkplace-based assessmentとして、実践の観察評価を行い、e-ポートフォリオに記録する体制を検討し、全診療科に評価用のiPadを配布し、トライアルを開始した。 360度評価は、離島・地域医療実習において、看護師、薬剤師による評価を計画している。 学習成果基盤型教育における卒業時の到達目標の達成、並びに各phaseのマイルストーン評価を可能にするe-ポートフォリオを構築した。	
今後の計画	
離島・地域医療実習において、看護師、薬剤師による360度評価を行う。 「臨床実習」でのe-ポートフォリオを用いた効果的な評価については2020年1月開始の臨床実習で正式に導入する。臨床実習における360度評価の導入についても検討する。 到達目標の達成、並びに各phaseのマイルストーン評価は、自主研究で一部導入予定であり、全項目についての評価体制を検討、導入する。	
改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料	
【資料47】平成30年度第9回臨床実習検討WG議事要旨	

3. 学生の評価	3.2 評価と学習との関連
-----------------	----------------------

基本的水準 判定：適合
改善のための助言
低学年からも学習成果基盤型教育に基づいた評価をさらに確実に構築すべきである。
改善状況／現在の状況
シラバスに教育到達目標と Phase を明記して学習成果基盤型教育に基づいた科目として実施している。Phase ごとのマイルストーンを学生と教員が双方向に確認できる e-ポートフォリオを構築した。
今後の計画
現在の体制を運用・評価して継続的改善を図る。
改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料
【資料1】医学研究科目「自主研究（必修）」シラバス記載要領及び授業モデル 【資料2】e-ポートフォリオ使用法 【資料46】e-ポートフォリオ評価画面

3. 学生の評価	3.2 評価と学習との関連
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
総括的評価とのバランスにおいて、形成的評価をさらに活用すべきである。	
改善状況／現在の状況	
「臨床実習」やプロフェッショナルリズム科目（「シャドウイング」、「チーム医療」等）においては既に e-ポートフォリオを活用した形成的評価を行っている。新たに4年次に実施される「自主研究（必修）」において評価を e-ポートフォリオで行うことを計画し、シラバス記載要領に形成的評価として学生の日々の振り返りや自己評価等に対する評価を e-ポートフォリオで行うことを明記した。	
今後の計画	
現在の体制を維持・活用して行くとともに、他の科目においても形成的評価の充実を図っていく。	
改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料	
【資料1】医学研究科目「自主研究（必修）」シラバス記載要領及び授業モデル 【資料2】e-ポートフォリオ使用法	

3. 学生の評価	3.2 評価と学習との関連
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
e-ポートフォリオでの評価を低学年の基礎医学・社会医学から臨床実習にわ	

<p>たるすべての科目で確実におこなっていくべきである。</p>
<p>改善状況／現在の状況</p> <p>「臨床実習」やプロフェッショナルリズム科目（「シャドウイング」、「チーム医療」等）においては既にe-ポートフォリオを活用した形成的評価を行っているが、新たに4年次に実施される「自主研究（必修）」において評価をe-ポートフォリオで行うことを計画し、シラバス記載要領に形成的評価として学生の日々の振り返りや自己評価等に対する評価をe-ポートフォリオで行うことを明記した。</p>
<p>今後の計画</p> <p>現在の体制を維持・活用して行くとともに、他の科目においても形成的評価の充実を図っていく。</p>
<p>改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料</p> <p>【資料1】医学研究科目「自主研究（必修）」シラバス記載要領及び授業モデル</p> <p>【資料2】e-ポートフォリオ使用法</p>

<p>3. 学生の評価</p>	<p>3.2 評価と学習との関連</p>
<p>質的向上のための水準 判定：部分的適合</p>	
<p>改善のための示唆</p> <p>統合的学習を促進するために現行の試験の回数を検討することが望まれる。</p>	
<p>改善状況／現在の状況</p> <p>現在の1～4年時の科目はphaseに応じた統合カリキュラムとなっており、各科目で統合的学習成果を評価する試験について教務委員会、カリキュラム検討WGで検討している。試験の回数はカリキュラム単位（科目）で本試験1回、追再試験1回としている。</p>	
<p>今後の計画</p> <p>学習を促進する科目の成績評価について、継続して検討する。</p>	
<p>改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料</p> <p>【資料48】医学科科目開講期</p>	

<p>3. 学生の評価</p>	<p>3.2 評価と学習との関連</p>
<p>質的向上のための水準 判定：部分的適合</p>	
<p>改善のための示唆</p> <p>総合試験を除いて試験実施後の適切なフィードバックが少ないので改善が期待される。</p>	
<p>改善状況／現在の状況</p> <p>1～4年次の科目においても「生理」「診断治療基礎」「医療情報・検査」「生殖・乳房」をはじめとする多数の科目で試験後の解答例の配布、フィードバックを行</p>	

<p>っている。</p> <p>臨床実習は、e-ポートフォリオを活用した評価とコメントにより、全必修ローテーション終了時のフィードバックを行っている。</p>
今後の計画
<p>試験実施後のフィードバックが未実施の科目は実施を検討する。また既に実行されているオフィスアワーの活用を促し、個別のフィードバックを促進する。</p>
改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料
<p>【資料49】回答例等の掲示内容（フィードバック）の例</p>

4. 学生	4.3 学生のカウンセリングと支援
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
<p>地域枠学生のキャリアガイダンスがさらに充実することが期待される。</p>	
改善状況／現在の状況	
<p>2018年7月10日、地域枠医学生・卒業医師を対象に大学で説明会を開催した。また、「平成30年度 鹿児島県 修学資金貸与医師の専門医取得に係るローテーションモデル」冊子の発行、ならびに「2019年度 鹿児島県専門研修プログラム」冊子の発行を行い、キャリア形成に関する独自の情報を提供している。これらの冊子は、HPでも公開している。</p>	
今後の計画	
<p>今後も、自治体、医師会（病院）との意見交換の場を設定し、継続的に地域の意見を医学教育に反映するよう検討していく。</p> <p>毎年、一般医師向け、地域枠医師向けの冊子（HPも更新）を発刊し、学生へのキャリア提示を継続する。</p>	
改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料	
<p>【資料50】キャリア形成及び医師修学資金貸与制度に係る説明会案内通知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域枠キャリア形成に関するHP：URL ↓ https://renkei.kufm.kagoshima-u.ac.jp/chikiwaku/career ・一般医師の専攻医プログラム紹介HP：URL ↓ https://renkei.kufm.kagoshima-u.ac.jp/program/programs/ 	

4. 学生	4.3 学生のカウンセリングと支援
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
<p>学習上のカウンセリングをおこなう助言指導教員の活動を記録し、保存することが望まれる。</p>	
改善状況／現在の状況	

助言指導教員による成績不振の学生との面接記録の提出を義務付けている。
今後の計画
現行の体制を継続していく。
改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料
【資料51】成績に対する助言・指導実施報告書様式

4. 学生	4.4 学生の参加
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
学生がさらに一層教務委員会医学科部会で積極的に活動するように促すべきである。	
改善状況／現在の状況	
教務委員会医学科部会に参加する学生の幅を拡張して、2019年度より4・5年次生4名から2～5年次生8名に増やす計画を立てた。	
今後の計画	
教務委員会医学科部会に参加する学生の幅を拡張して、2019年度より4・5年次生4名から2～5年次生8名に増やす。更に、教務委員会に参加する学生に対し、学年代表としての意見と個人の意見の双方を発言できるように促していく。	
改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料	
【資料3】平成30年度第12回教務委員会医学科部会議事要旨	
【資料52】国試対策について学生が取りまとめた資料	

5. 学生	5.2 教員の活動と能力開発
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
FDの内容及び回数を充実し、より一層の教員参加を促進するべきである。	
改善状況／現在の状況	
2017年度までに実施しているFD（授業評価アンケート、卒業生アンケート、入試面接評価者講習会等）に加え、新たに新任教員を対象としたFDを2018年10月に、また医学教育や診療参加型実習、臨床推論に関する研修会等についてのFDを計9回開催し、教員の77.4%が参加した。また、新任教育FDは次年度以降も継続して実施することを決定した。	
今後の計画	
FD年度計画で決定した方針に基づき、来年度以降も継続してFDを実施していく。	
2019年度は、manabaの講義への応用、自主研究、臨床実習の新カリキュラムおよび「UP To Date」に関する研修会を予定している。	
改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料	

<p>【資料18】医学教育FDセミナー（診療参加型臨床実習）開催通知</p> <p>【資料53】平成31年度FD活動計画書</p> <p>【資料54】平成30年度医学科教員関連FD活動一覧</p>
--

5. 学生	5.2 教員の活動と能力開発
<p>基本的水準 判定：部分的適合</p>	
<p>改善のための助言</p> <p>新任教員に対して医学科の教育目標、教育プログラム等を理解した上で教育を担当できるように、全学の採用時FDだけでなく、医学科に特化した採用時FDを開催すべきである。</p>	
<p>改善状況／現在の状況</p> <p>新任教員に対して医学科の教育プログラムを理解するためのFDを行った。2018年10月のFDでは医学科におけるアクティブ・ラーニングについての理解を深めた。2019年2月のFD講演会では臨床推論の指導も含めた講演会を、教員・学生などを対象に行った。</p>	
<p>今後の計画</p> <p>2019年5月のFDでは臨床実習担当の指導医や学生・研修医を対象に、「UP To Date」の活用法に関する講演会を開催する。この講演会は、実際に「UP To Date」を使用しながら、アクティブ・ラーニング方式で行う。</p> <p>引き続き新任教員FDと定期的に教員・指導医の教育に関するスキルアップの為の講演会を開催する。</p>	
<p>改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料</p> <p>【資料19】FD研修会（UP To Date）ポスター</p> <p>【資料32】平成30年度新任教員FD研修会資料</p> <p>【資料54】平成30年度医学科教員関連FD活動一覧</p> <p>【資料55】第39回鹿児島地域医療教育講演会ポスター</p>	

5. 学生	5.2 教員の活動と能力開発
<p>基本的水準 判定：部分的適合</p>	
<p>改善のための助言</p> <p>学外においても学生教育を推進するために配置された臨床教授等について、教育の質を担保するためにFDを開催する等、具体的な方法を明示すべきである。</p>	
<p>改善状況／現在の状況</p> <p>シャドウイングや離島医療実習においては、全ての教員に対し指導内容等についての意見の聴取を行っている。</p> <p>「離島・地域医療実習」では教授内容について冊子を配布し、学修目標や教授内容について周知を図っている。また、離島やへき地では、指導者を招聘してのFDなどは実施できないため、教員が全ての実習先を毎年訪問し、教育の方針や</p>	

具体的な指導法について説明している。
今後の計画
各分野における学外の研修機関からの意見を集約し、カリキュラムに反映できるような体制づくりを進めるとともに、臨床教授等の指導者を含めた意見集約の場の開催を考慮する。
改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料
【資料56】 離島・地域医療実習に関する資料（令和元年度クリニカルクラークシップ実習ファイル）

6. 教育資源	6.1 施設・設備
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
教育の進歩や変化に伴う施設・設備の改善のための調査を継続して分析と改善に活かすこと、及び老朽化に備えた学習環境の改善のための計画的な取り組みが望まれる。	
改善状況／現在の状況	
<p>長期的な施設整備の要求計画の一つとして診療参加型実習に必要な設備として新たなシミュレーター（心臓病診察シミュレーター イチローⅡA）を導入し、学生の手技的技能向上に役立てた。また、臨床実習指導学生の評価に用いる端末の配布を1/2達成した。更に、新5年生の更衣室の整備を行った。</p> <p>医学部企画委員会で、必要な施設・設備の改修等の概算要求を審議し、要求を行っている。</p>	
今後の計画	
<p>臨床実習指導学生の評価に用いる端末の配布の残り1/2を達成する。少人数での統合型学習、グループ学習ができる教室が必要となっており、今後も予算確保の努力を継続する。</p> <p>学生の出席管理、レポート管理、小テスト、アンケートなどを学生が持つスマートフォンやタブレットでできる、manabaのシステムを導入し、学びの強化を実施する。</p> <p>今後も継続して大学本部に対し要求を行っていく。また、至急の対応が必要な場合は、予算の許す範囲で対応を行っていく。</p>	
改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料	
<p>【資料57】 写真（心臓病診察シミュレーター イチローⅡA）</p> <p>【資料58】 新5年生の更衣室の整備後のロッカー配置図</p> <p>【資料59】 令和元年度第1回医学部企画委員会議事次第</p>	

6. 教育資源	6.2 臨床トレーニングの資源
基本的水準 判定：部分的適合	

改善のための助言
学生が適切な臨床経験を積めるよう、必要十分な患者数と common disease を中心とした必要十分な疾患カテゴリーを確保すべきである。
改善状況／現在の状況
学外施設を 60 施設設置している。更に common disease を中心とした疾患の学習ができる環境を整えている。 総合診療を学ぶ「離島・地域医療実習」では、common disease が学べるように、説明の冊子を配布すると共に、各学外実習先を訪問し、直接説明している。
今後の計画
選択実習の拡大に伴った施設数の増加を計画している。2019 年度には在宅医療機関を 2 施設から 3 施設に増やした。施設の指導者と意見を交換できる体制の構築を検討し、さらなる連携を図る。
改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料

6. 教育資源	6.2 臨床トレーニングの資源
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
スキルスラボ施設を拡充すべきである。	
改善状況／現在の状況	
スキルスラボを利便性が高まるように整備し、シミュレーター（心臓病診察シミュレータ イチローⅡA）を導入した。	
今後の計画	
臨床トレーニング施設を十分に確保するため、今後も予算確保の努力を継続する。また、シミュレーション教育設備が多く利用されるように、周知を図っていく。	
改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料	
【資料57】写真（心臓病診察シミュレータ イチローⅡA）	

6. 教育資源	6.2 臨床トレーニングの資源
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
学生が適切な臨床経験が積めるように、患者数及び疾患カテゴリーを調査して、臨床トレーニング施設を評価、整備、改善すべきである。	
改善状況／現在の状況	
学生の臨床経験（患者数及び疾患カテゴリー）を e-ポートフォリオを用いて記録し調査している。また、紙媒体においても臨床実習評価アンケートにて経験症例の調査を行っている。	

今後の計画
患者数および疾患カテゴリーの調査のため、学生に e-ポートフォリオの症例報告を徹底するよう周知を図る。
改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料
【資料21】平成30～31「選択実習」学外実習参加者数及び比率 【資料22】平成30～31「選択実習」実習施設（臨床教育協力機関等）一覧 【資料57】写真（心臓病診察シミュレータ イチローⅡA） 【資料60】平成30年度5年臨床実習評価アンケート結果報告資料

6. 教育資源	6.3 情報通信技術
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<p>学生が直接電子カルテシステムにアクセスでき、カルテ記載ができるような学習環境を整備することが望まれる。</p> <p>日本版注釈：[担当患者のデータと医療情報システム]とは、電子カルテ診療録など患者診療に関わる医療システム情報や利用できる制度へのアクセスを含む。 (新規追加項目)</p>	
改善状況／現在の状況	
<p>学生は担当した患者の電子カルテに直接アクセスできるように個別のID、パスワードを与えられている。一部の診療科においては、学生が電子カルテ以外の媒体に記載した内容を指導医が確認の上、電子カルテに記載している。</p>	
今後の計画	
<p>現状で行われている学生の電子カルテの記載方法を改善・発展するよう検討する。</p>	
改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料	
【資料47】平成30年度第9回臨床実習検討WG議事要旨	

6. 教育資源	6.3 情報通信技術
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<p>診療参加型臨床実習を充実させるために、学生全員にPHSを貸出す等の通信手段のより一層の整備が望まれる。</p>	
改善状況／現在の状況	
<p>学生にはPHSを持たせているが、現在一部にとどまっている。</p>	
今後の計画	
<p>PHSの拡充あるいはPHSに替わる通信手段について検討する。</p>	
改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料	
【資料47】平成30年度第9回臨床実習検討WG議事要旨	

6. 教育資源	6.5 教育専門家
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
学外の教育専門家等の活用について医学科の方針を策定し、履行すべきである。	
改善状況／現在の状況	
医歯学教育開発センターの学外研究協力者から、教育専門家として本学の教育に意見を聴取する方針としている。医歯学教育開発センターは、それらの意見を取りまとめ、教務委員会医学科部会に報告する体制を整備した。	
今後の計画	
教育の課題解決に、学外の教育専門家にアクセスし、意見を教育に活用するために、医歯学教育開発センターが役割を担う。	
改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料	
【資料6】医学教育FDセミナー「医学教育の今そして未来のために」 【資料43】鹿児島大学医学部教務委員会医学科部会規則 【資料61】平成31年度臨床教授等一覧 【資料62】鹿児島大学大学院医歯学総合研究科医歯学教育開発センター規則 【資料63】医歯学教育開発センター教職員	

6. 教育資源	6.6 教育の交流
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
学内の保健学科及び歯学部の教職員及び学生との交流を促進すべきである。	
改善状況／現在の状況	
東京慈恵会医科大学医学部と鹿児島大学医学部との包括的連携を締結した。 歯学部との連携に関しては終末期医療等の医系の臨床見学実習への参加、歯系教員の医学部講義への参加（口腔と全身疾患、口腔ケアなど）を2018年度より実施している。また、医学科4年次の「チーム医療2」においては保健学科の学生や他大学薬剤部生も加えた合同授業を実施している。 「地域医療トレーニングキャンプ」では、学内の希望する医学科・保健学科・歯学部学生と共に地域を訪問し、地域の住民とふれあい、医療の問題を討論する機会を提供している。	
今後の計画	
学内の保健学科及び歯学部の教職員及び学生と交流して学ぶ機会を設けており、今後も継続して実施していく。	
改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料	
【資料44】【シラバス】チーム医療2 【資料64】新カリキュラムに向けた医系科目の調整について 【資料65】慈恵会医科大学との包括連携に関する協定書	

<p>・地域医療トレーニングキャンプに関するHP：URL ↓ http://www.kufm.kagoshima-u.ac.jp/ecdr/training/2019tra-cam/9tra-cam.html</p>

7. プログラム評価	7.1 プログラムのモニタと評価
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
カリキュラムの教育プロセスと学習成果を分析し、教育改善につなげる独立した組織を実質的に活動させるべきである。	
改善状況／現在の状況	
自己点検評価委員会に集まる情報を分析・評価して企画委員会が決定した方針に基づいて教務委員会が中心となり教育の改善に向けた取り組みが実働している。	
今後の計画	
構築されたシステムの実質的活動を継続する。	
改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料	
【資料66】平成30年度カリキュラムに関するワーキンググループの設置について	
【資料67】教育の包括的評価と改善の仕組みに関する組織図	

7. プログラム評価	7.1 プログラムのモニタと評価
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
プログラムをモニタするために教学IR機能を充実させ、データの集積、解析を行う体制を確立するべきである。	
改善状況／現在の状況	
教育に係る情報収集と分析（教学IR機能）については、医歯学教育開発センターが担っており、データの集積・解析を行っている。	
今後の計画	
医歯学教育開発センターの機能を人的、予算的に可能な範囲で充実を図っていく。	
改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料	
【資料62】鹿児島大学大学院医歯学総合研究科医歯学教育開発センター規則	

7. プログラム評価	7.1 プログラムのモニタと評価
質的向上のための水準 判定：部分的適合	

改善のための示唆
<p>教育プロセスと学習成果を定期的にモニタする仕組みを構築し、定期的に教育プログラムを包括的に評価することが望まれる。</p> <p>日本版注釈：プログラムのモニタを行う組織を明確にすることが望まれる。</p> <p>日本版注釈：プログラム評価を行う組織は、カリキュラムの立案と実施を行う組織とは独立しているべきである。</p> <p>日本版注釈：プログラム評価は、授業評価と区別して実施されなくてはならない。 (新規追加項目)</p>
改善状況／現在の状況
Phase 1・2・3の学習成果（マイルストーン）の達成度をe-ポートフォリオで確認できるシステムの構築を達成した。
今後の計画
個人のe-ポートフォリオの評価を通じて教育プログラムの全体を包括的に評価する。また、5年次の学力と、その後の学修の進み具合が学生自身や教育担当者にも解る方策一つとして、5年次の評価の一つとしてプログレステストを実施する。
改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料
<p>【資料39】 授業評価アンケート（1～4年生）</p> <p>【資料40】 臨床実習評価アンケート（5年生）</p> <p>【資料41】 臨床実習評価アンケート（6年生）</p> <p>【資料42】 卒業生アンケート</p> <p>【資料68】 プログレステストに関する教務委員会資料（平成30年度第12回教務委員会医学科部会議事次第）</p>

7. プログラム評価	7.2 教員と学生からのフィードバック
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
<p>学生や多くの教職員の建設的な意見を集める仕組みを構築し、系統的な分析をおこなうべきである。</p>	
改善状況／現在の状況	
<p>教務委員会の下部組織であるWGには全科の教員が参加している。6年間を通じた教育に対する意見を総合（卒業）試験終了時にアンケートにて求めている。また、FD委員会にて卒業生の教育に対する意見を求める仕組みが実働しており、系統的な分析がなされ教務委員会に報告されている。</p>	
今後の計画	
<p>教育を実施する立場である教務委員会ならびに教育センターのIRによる分析結果を自己評価検討委員会に報告して計画された理念、ミッションに対する達成度の評価を行い、企画委員会、教務委員会へと繋がるPDCAサイクルを実働させる。</p>	
改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料	
【資料3】 平成30年度第12回教務委員会医学科部会議事要旨	

7. プログラム評価	7.2 教員と学生からのフィードバック
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
今後も教育プログラムを見直す際は、学生や教員からのフィードバックを系統的に反映することが望まれる。	
改善状況／現在の状況	
教務委員会の下部組織であるWGには全科の教員が参加している。6年間を通じた教育に対する意見を総合（卒業）試験終了時にアンケートにて求めている。また、FD委員会にて卒業生の教育に対する意見を求める仕組みが実働しており、系統的な分析がなされ教務委員会に報告されている。	
今後の計画	
教育を実施する立場である教務委員会ならびに教育センターのIRによる分析結果を自己評価検討委員会に報告して計画された理念、ミッションに対する達成度の評価を行い、企画委員会、教務委員会へと繋がるPDCAサイクルを実働させる。	
改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料	
【資料69】 学生授業評価アンケート集計結果のフィードバックに対する授業担当教員からの意見収集等に関するアンケート	

7. プログラム評価	7.3 学生と卒業生の実績
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
卒業生アンケートを解析するに当たり、単年度だけでなく、継続して解析を行う体制を構築すべきである。	
改善状況／現在の状況	
本学の中期目標・中期計画の一環として、2018年度も全学的な卒業生アンケートの実施に加え、医学科の卒後3年目及び10年目の卒業生を対象にアンケートを実施した。医学科では毎年同窓会の協力を得て卒業生アンケートを実施する体制が整っている。	
今後の計画	
今後も卒業生アンケートを継続し、Webでのアンケートを活用するなど調査方法・内容を検討しながら、卒業生アンケートを充実させる。	
改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料	
【資料42】 卒業生アンケート	
【資料70】 平成30年度鹿児島大学の学修成果に関する卒業生調査（医学科）	

7. プログラム評価	7.3 学生と卒業生の実績
------------	---------------

質的向上のための水準 判定：部分的適合
改善のための示唆
学生、卒業生の実績をデータとして収集し、それを分析するシステムを構築し、カリキュラム改善に資することが望まれる。
改善状況／現在の状況
医歯学教育開発センターに役割が位置付けられていた教育評価・分析 I R を担当する助教を 2019 年 7 月に採用の予定である。また、入試面接得点と総合試験、OSCE、CBT の関連についてデータの収集を行い分析・検討を行った。
今後の計画
Descriptive なデータから導かれる意味、今後の方策についてアドミッション・センター、教務委員会、FD 委員会にて検討の上、自己評価検討委員会に報告してフィードバックする計画を立てる。 医歯学教育開発センターに役割が位置付けられていた教育評価・分析 I R を担当する助教を 2019 年 7 月に採用する。 アドミッション・センター、教務委員会、FD 委員会が収集した学生、卒業生のデータの分析を行い、自己点検評価委員会に改善の状況を報告することを予定している。
改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料
【資料71】平成26～28年度卒業生入試面接得点と総合試験、OSCE、CBT との関係

7. プログラム評価	7.4 教育の関係者の関与
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
プログラムを定期的にモニタする責任ある部署を設立し、主な教育の関係者を参加させるべきである。	
改善状況／現在の状況	
教育開発センターに I R 担当部署を設立し、担当教員を配置する計画を立案し、2019 年 7 月 1 日より実働できるよう検討した。	
今後の計画	
教育開発センターに I R 担当部署を設立し、担当教員を配置する。 教育の評価に対する学生の関与について検討する。 教育プロセスと学習成果を定期的にモニタする組織を明確にした体制づくりを検討していく。	
改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料	
【資料39】授業評価アンケート（1～4年生） 【資料40】臨床実習評価アンケート（5年生） 【資料41】臨床実習評価アンケート（6年生） 【資料42】卒業生アンケート	

7. プログラム評価	7.4 教育の関係者の関与
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
卒業生が勤務する施設から卒業生の実績に関わる情報を系統的に収集し、解析して教育プログラムの改善につながることを望まれる。	
改善状況／現在の状況	
卒業生の1/5は大学病院研修プログラム、1/2は大学病院を含む鹿児島県内の研修病院で研修しており、その大部分は大学病院プログラムの関連施設となっている。これらの病院で研修している卒業生の実績は、教務委員会委員である臨床研修センター教員から報告され、カリキュラムの改善に関わるフィードバックも提供できる体制としている。	
今後の計画	
鹿児島県内の研修病院責任者から卒業生の実績と学部教育カリキュラムに対するフィードバックを求めることを目的とした学部長主催の懇談会を定期的で開催することを計画する。	
改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料	
【資料43】鹿児島大学医学部教務委員会医学科部会規則	

8. 統轄及び管理運営	8.1 統轄
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
教育関連委員会の委員会組織同士の関連性が明示されるように組織図を整備することが望まれる。	
改善状況／現在の状況	
資料66にあるような組織図を整備した。	
今後の計画	
組織図について、各組織の改変が行われた場合には、必要に応じて見直しを図っていく。	
改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料	
【資料67】教育の包括的評価と改善の仕組みに関する組織図	

8. 統轄及び管理運営	8.1 統轄
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
各委員会の議事要旨では審議事項のみ示されている。どのような議論があってもどのような結論に至ったのかわからないので今後、議事要旨の改善が望まれる。	

改善状況／現在の状況
入試委員会医学科部会の議事要旨は、各議題に関する議決内容が記載されている。
今後の計画
議決内容だけでなく、議論の過程について記載するように改める。
改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料
【資料72】平成30年度第1～4回入試委員会医学科部会議事要旨

9. 継続的改良	9 継続的改良
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
医学部教学 I R 部門の機能が実質化し、教育プログラムの継続的改良に貢献することが期待される。	
改善状況／現在の状況	
教育に係る情報収集と分析（教学 I R 機能）については、医歯学教育開発センターが担っており、データの集積・解析を行っている。	
今後の計画	
医歯学教育開発センターの機能を人的、予算的に可能な範囲で充実を図っていく。	
改善状況を示す根拠資料／現在の状況を示す根拠資料	
【資料62】鹿児島大学大学院医歯学総合研究科医歯学教育開発センター規則	

受審後に医学教育分野別評価日本版に新たに加わった項目

2. 教育プログラム	2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学
日本版注釈：[行動科学] は、単なる学修項目の羅列ではなく、体系的に構築されるべきである。	
現在の状況	
6年間のカリキュラムを Phase 1、Phase 2、Phase 3 に分類し、Phase 1 では「患者と医療」、Phase 2 の「医療面接 1・2」、「精神」、Phase 3 の臨床実習で心理学、行動科学の基本理論から臨床応用までを段階的に、繰り返し学修する内容としており、プロフェッショナルリズムが浸透するカリキュラムを構築している。受審時の評価では「特記すべき良い点」として「低学年から行動科学に含まれる内容の基本理論から臨床応用までを段階的に、繰り返し、sp I Ra1 に学修していることは評価できる」と認定された。 毎年、カリキュラムを更新し、改善を図っている。	
今後の計画	
「心身医療実習」は 2016 年度導入カリキュラムでは 2 週間へ延長されており、より多くの診療場面で臨床における行動科学の臨床応用を学べる体制を構築し	

ていく。 更に、2020年より心身医療科および精神科での臨床実習を4週間に延長し、臨床実習前に学修した内容を医療の実践に応用する診療参加型実習の推進を行う。
根拠資料
【資料25】 【シラバス】 患者と医療 【資料27】 【シラバス】 医療面接 1 【資料44】 【シラバス】 チーム医療 2 【資料73】 【シラバス】 医療面接 2 【資料74】 【シラバス】 精神

5. 教員	5.1 募集と選抜方針
日本版注釈：教員の男女間バランス配慮が含まれる。	
現在の状況	
<p>本学は、女性研究者支援をはじめとする男女共同参画に係る取り組みを積極的に推進しており、「女性研究者の積極的な応募を歓迎」する旨の記載を行っている。医学部医学科の専任教員のうち女性研究者の割合は、2019年4月現在で21.8%(142名中31名)である。</p>	
今後の計画	
<p>これからも、履歴書、業績目録、研究の概要と今後の研究方向、医学教育についての考え方等の提出書類による公平な評価を行い、教授選考においてはセミナーを開催し、総合的に評価する等を行い、必要な教員の確保に向けて取り組んでいく。なお、女性研究者の確保についても、男女共同参画に係る取り組みを進めていく予定である。</p>	
根拠資料	
【資料75】 教員公募の例 【資料76】 鹿児島大学における教員選考の基本方針	

6. 教育資源	6.1 施設・設備
日本版注釈：[安全な学修環境]には、防災訓練の実施などが推奨される。	
現在の状況	
<p>災害等の緊急事態対応のため、2017年11月からインターネットを活用する安否情報システム「ANPIC」を導入している。</p> <p>これにより、鹿児島県、熊本県、宮崎県で震度6弱以上の地震が発生した場合、事前に登録されている学生のメールアドレス（学務システムに登録されているメールアドレス）宛てに「ANPIC」から自動で安否確認メールが送信され、安否状況を確認できる体制を構築している。</p> <p>教職員については、大学病院の防災訓練に参加する形で訓練を行っている。</p>	
今後の計画	

病院で行われている災害訓練に学生が参画できるよう検討を行っていく。
根拠資料
【資料77】安否情報システム（ANPIC）の導入について（学生用通知）
【資料78】平成30年度桜ヶ丘地区消防訓練等の実施通知
【資料79】鹿児島大学病院災害対策マニュアル

6. 教育資源	6.6 教育の交流
日本版注釈：[倫理的原則を尊重して]とは、年齢、性別、民族、宗教、経済力などによる差別がないことをいう。	
現在の状況	
倫理原則を尊重し、差別的取り扱いがないよう努めている。	
今後の計画	
今後も倫理原則を尊重して、交流が合目的に組織されることを保障していく。	
根拠資料	